アタゴオルは猫の森

ATAGOAL is Cat's Forest

11

ますむら・ひろし



MFコミックス

MFコミックス

フラッパーシリーズ

アタゴオルは猫の森 11

ますむら・ひろし

MEDIA FACTORY

ISBN978-4-8401-1686-2
C9979 ¥514E

9784840116862

1929979005146

定価：本体514円（税別）
雑誌52644-86
メディアファクトリー
MEDIA FACTORY



アタゴオルの森を離れ、
星街に滞在するヒデヨシたち。
不思議なかき氷を食べて、舞台は
星街から雲街に！『OHかき氷』。
雲街に出現する巨大クラゲに
襲われたテンプラは……『トラマルア』。
アタゴオルに戻ったヒデヨシたち、
今度は森の王と呼ばれる
狂った猫の日時計を直しに行くが、
そこでヒデヨシの大食いの秘密が
明かされる！『食欲ノ秘密』。
癒しと元気が溢れる8つのお話に
お馴染み、作者書き下ろしの解説を収録。





ますむら・ひろし

昭和27年生まれ
昭和48年、第5回手塚賞
準入選作『霧にむせぶ夜』で
『週刊少年ジャンプ』にてデビュー。
青林堂に入り『ガロ』で活躍し、
その後も『アタゴオル』をはじめ
次々と作品を各誌で発表する。
平成9年には『アタゴオル玉手箱』で
日本漫画家協会賞大賞受賞。
宮沢賢治作品の漫画化にも取り組み、
『銀河鉄道の夜』が劇場アニメとして
昭和60年に公開され話題を呼んだ。
現在『月刊コミックフラッパー』にて
『アタゴオルは猫の森』を連載中。
平成18年10月『アタゴオルは猫の森』が
劇場アニメとして公開された。

装画・ますむら・ひろし
装幀・多田和博＋岡田ひとみ
フォーマットデザイン・フィールドワーク

アタゴオルは猫の森

11

ますむら・ひろし

ATAGOAL is Cat's Forest

アタゴオルは猫の森 ⟨11⟩

ますむら・ひろし

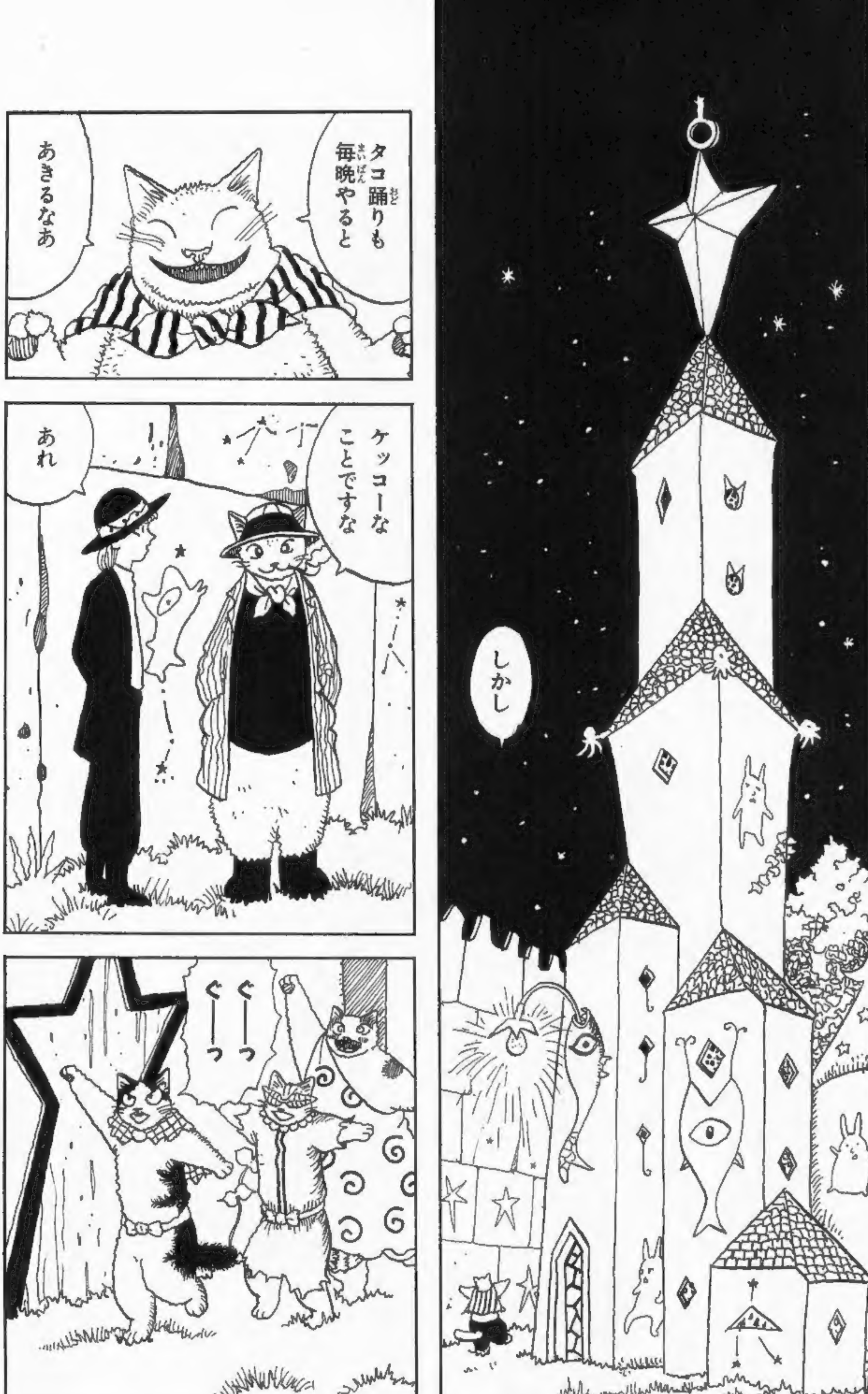


アタゴオルは猫の森 ⟨11⟩

ATAGOAL is Cat's Forest

第一話　OH（おう）かき氷（ごおり）




しかし
タコ踊りも毎晩やると
あきるなあ
ケッコーなことですな
あれ
ぐーっぐーっ



ドラネコ団だ
おまえたち どうしたんだ?
酔っぱらった親父と
おまえの家に盗み食いに入ったら…
変な石があって それをさわったら ココに来たのさ
そーそー
酔っぱらった親父?
あいつ
う〜っ ここは ドコだあ
あっ 美茶さんだ


誰だ コイツ?
おめえ 毎年忘れてんなあ
かき氷屋の美茶だよ
夏になると毎年アタゴオルに来るだろう
去年のことは知りませーん
ここどこ?
ここは星街だよ
ホシマチ
へーっ ここが星街かあ
なに〜〜っ 星街っ
ホントかっ
ホントだよ
どうかしたのか


ここには凄いかき氷屋があるって話だ
凄いかき氷屋!?
前から一度行ってみたいと思ってたんだ
よーし行ってみっかっ
パチ
パチ
ジジジ
あーもしもし
なんだい？
この辺にかき氷屋はないかね？
かき氷屋
星街には一軒あるけどつぶれてるんじゃないかなあ
つぶれてる!!
んー


セキラン
かき氷店
ここか
ガチャ
ガチャ
鍵かかってるぞ
やっぱり
つぶれたのかなあ
やってるよー
ら
やってるのなら
どーして鍵なんか
かけるのさっ


では問題です
鳴龍座の尾にあたる1等星の名は?
はあ?
はい デブネコさん失格
100万年うちのかき氷は食えません
なんだとコラッ
ドゴッ
コレコレ
では帽子の君に同じ質問です
鳴龍座の尾の1等星は……
「ニュルマユル」
合格です
パチ
パチ


うっ
ビッ
おっ
体が引っぱられる
スポッ
ありゃ
テンプラが入ってった
まさか
カツラも
正解するとは
思わなかったぜ
ほほほ
では次の問題は
白黒猫にです
オウ
フフッ


「リンゴ座の星座の数は?」でカツラの答えは
ゴッ
正解は5だもんねー
けっきょく不正解はヒデヨシだけか
くっそー
ドーン
みなさまよくいらっしゃいました
セキランかき氷店の店主パチルです
ドーン
コラーッ入れろ
ダンナさん外でデブネコがあばれてます
どうしましょう



どうもこうもないっ
正解しなければ戸は通過できないのだ
しょうがない
簡単な質問をしろ
ハイ
それでは
おまえにだけ
特別に問題を
出そう
よーし
こーい
朝になると
東から昇ってきて
夕方になると
西に沈むもの
なんだ?
ぷぷっ
簡単だべさ
「眠気」だよ
眠気!?
おうっ
朝になると
グッと眠くなって
夕方になると
眠気がなくなるのさ



そして
夜になると
踊りまくるのさっ
どーだあっ
失格
ずーっとそこで
踊ってろいっ
なんだと
コラーッ
ド
ゆるしま
せーーーん
ら
あっ
バ
リ
ッ
こーわした
こーわしたっ
とっとと帰れ
貴様には
かき氷は食わせん


べーっ
いらないよォ どーせ イチゴとか リンゴだろーっ
紅マグロの腹ワタ汁も あるぜ
ええ
紅マグロの腹ワタ汁う
匂い かいで みるか
へえっ
もわん


臭くくくっ
激臭
目がチカチカする
シビレる匂いっ
ダンナ様っ 戸ぶっこわして スイマセンでした
働いて 弁償しますから かき氷 食わせて けろ──っ
ほほう 実に謙虚 であるな ……
よろしい 特別に食わせて やろう
大好き 舐めちゃおう
うわっ やめろっ
では 注文を どうぞ

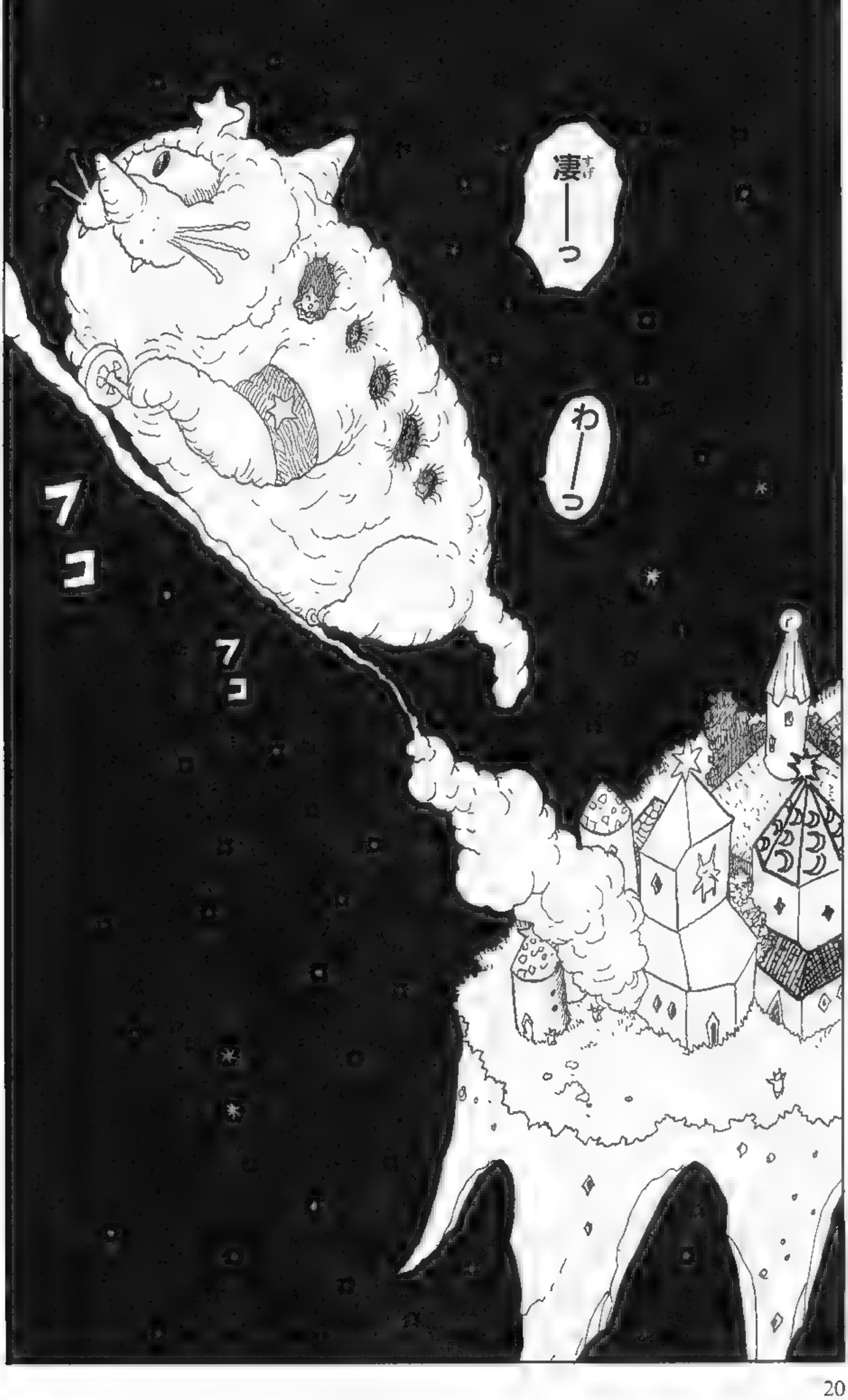


オレはイチゴ
リンゴ
紅マグロの腹ワタ汁たーっぷり
おまえ本気で食う気かよ
コレは変な客が来た時の威嚇用なんだぜ
イカク？
イカ食うんじゃなくてかき氷っ
ゴシュ
ゴシッ
ゴシュ
フーム不思議な輝きのする氷ですな
ほう判りますか
ワシは美茶といって旅するかき氷屋なもんでね


ささどうぞ
ん
ほう
うむ
いろんな所で氷を見ているが
この氷はいったい?
ほほほ秘密です
この氷の味は……フーム…
ただの水を凍らせたものではないな
んめ〜〜っんめーよォ
つんつんするわ
うまいけど…
臭い
ヒデヨシ臭いぞ


キラキラ
不思議な輝きをするかき氷だね
んめえよォ舌がしびれるぜぇ
あ〜〜〜っんまがったあ
なんだか体中がひんやりしてきたなあ
なかなかの味だったぞ
おや
あんたたちかき氷食ってきたね
えっ どうして判るんですか


だってホラ
えっ
にゃあっ
うわっ
ごっ
わー
なんだこりゃ
あれっ
ぬわわっ
んっ
フコ
ら
フコ

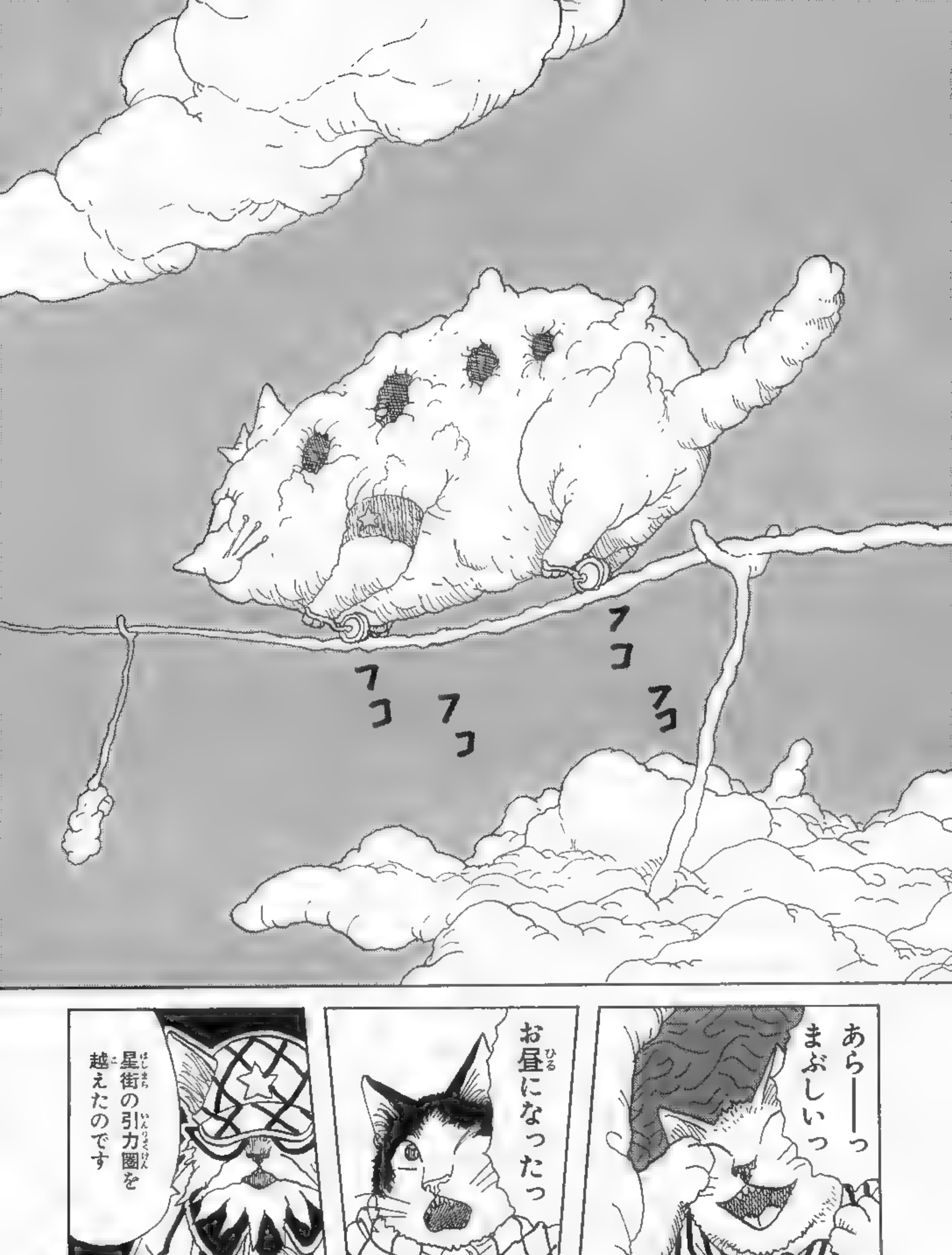

凄(すげ)ーっ
わーっ
フコ
フコ



フワフワしてるぞ
これ雲だっ雲でできてるぞ
そうか
セキランかき氷店のセキランって
積乱雲のことか
御名答
ら
かき氷屋の親父だなっ
ごつ
みなさまセキラン軽便電雲によ――こそ
乗り心地はいかがですか


いいぞオ
最高だぜ
なんか体がフワフワします
かき氷のせいだよ
凄いなあっ
大したもんだ
おおっ


星に手がとどきそうだ
フコ
フコ
なんだい あの星 でっかいぞ
んっ
星じゃないぞ
うわっ



フコ
フコ
フコ
フコ
あら——っ まぶしいっ
お昼になったっ
星街の引力圏を越えたのです


星街の引力圏
ごっ
なんだアレ？
あれは


我がかき氷の都
雲町です

第二話　雲ノ瞳




キャッホー
雲の街かよォ
到着でえす


ねえ
降りてもスポッと抜けて落ちたりしないの？
まだだいじょうぶだよ
まだっ!!
では


そーっと
おっ
ごっ
かき氷屋がいっぱいだ
くふふ
ワクワクするなあ
どこに入ればいいか
まよってしまうな



ここにしようぜっ
「タコ汁かき氷店」
ぶっ
イエ〜〜〜ッ
でろでろ
おやじっ タコ汁かき氷くれ——っ
あいよ
で


氷はどうしたの？
氷？
ははあん…
あんたたち
雲街の者じゃないね
ここいらじゃよ
氷は自分で
取ってくるのさ
えーーっ
取ってくるって
いったい
どこにあるん
ですかっ
フフッ
氷は雲の
野原にあるよ
雲の
野原だとっ
ようし
探しに行くか


どこだーっ
氷ちゃーん
わめいたって
見つからんよ
まず
雲見
しなくっちゃ
雲見!?
ら
雲の野原の
中から氷を
探すってえのは
砂漠で砂金を
探すようなもの


じっとして眼をならすのさ
ユラユラ漂っている…
ほんとうにこの雲の中に氷なんてあるのかな
ぐ〜〜ごっ
食うっ絶対食うわよォ
掘りまくればいいんだよ
うんしょうんしょ
コラッ ヒデヨシ寝てんじゃないよ
タコ汁かき氷食いたくないのかっ
ホッ


雲って軽いから楽だけど
掘ってもすぐに湧いてくるぞ
じゃーーん
ぐっ
ズドドー
うわっ
ヒデヨシだな
こらーっなにするんだっ
凄い穴が開いたぜ
ホホホ
んっ


なんか古い器械があるぜ
もう一発ぶっぱなしてブチこわしてみっか
バカモノ
それはなこの雲街の心臓部パチャコルだ
雲街の心臓部？
ああっこの街が浮かんでいてオレたちが住んでられるのはパチャコルのせいなんだ
そして雲の野原の中に貴重な氷が作られるのもこの器械の力なんだ
ごっ
らっ


でっけーっ
見つけっ
おおっ こんなに 大きい奴…
素晴らしい 風格っ 氷の王様だっ
いやーーっ
アンタたち 当分の間 氷掘り しなくてすむぞ
キャーッ
タコ汁ちゃん


んめーーっ
おう…美味なり
星街で食った氷とも微妙に違う味だな…
ああっ頭がチカチカするっ
オレも
ふーっ んまかった…
変だな…
まだ頭の中がチカチカする
ああ…
あれっ


にゃあーーっ
雲海を泳ぐ魚だよ
普通は見えない…かき氷を食ったから見えるのさ
オヤジ網貸してくれっ
網なんかいらないよ
ハナ唄唄っていな手づかみできるぜ
ホントか？


フンフーッ
んーんん
あららっ
魚が寄ってくる
すおーっと
イエッ
やったぜいっ
ではさっそく生食いをっ
あっ


んっ
ラッパだっ
魚じゃないのかよォ
あれっ
うまい!!
ホントだっ
ヒデヨシの音に感動するなんて
実はオレはラッパの名手だったのすあ
ごっ


あらっ
カツラうまいっ
うますぎるぞっ…どういうことだっ
吹いているだけで旋律が湧いてくるんだ
魚雲ラッパだよ
地上で流れたいろんな旋律は
空に昇って因子になって散らばってるのさ

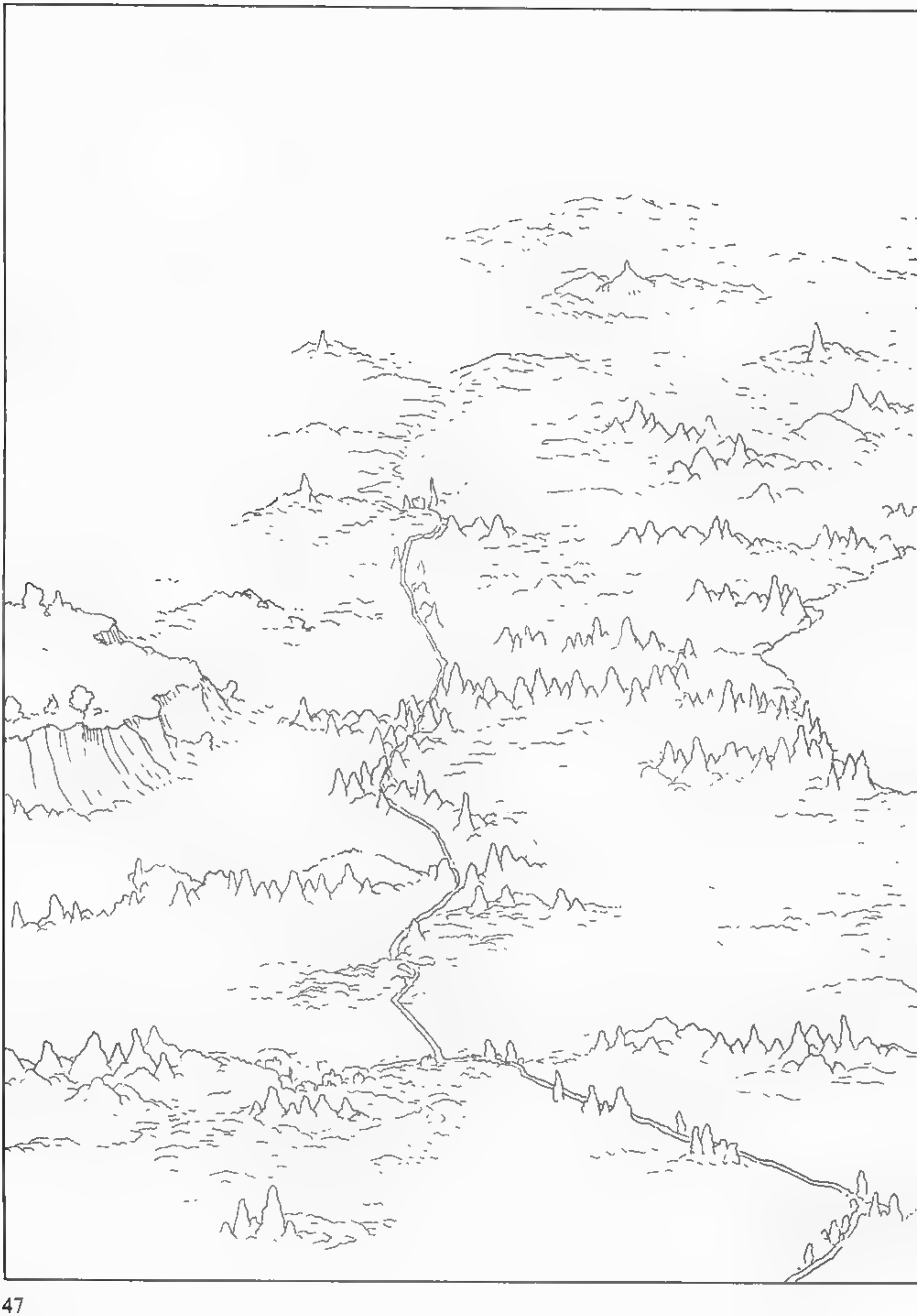

それが凝縮したラッパなんだよ
どうりでスゴイわけだ
そのラッパを吹ければもう雲街の民
まもなく雲ノ瞳になれるよ
雲ノ瞳？


くーーっ うますぎて シビレるぜえ
ふう くたびれた
休けいっ 雲見しよう
おう
フワフワ 気持ち いーからなっ
はあ…
んっ



らっ
あれっ…
ごっ
草原だ
家も… がっしりと 建っている
これが 雲街の住民の 見てる風景 なのか…
すっ
!
そうか
ここから 見れば


地上は雲で出来ているんだ




木も
家も
みんな雲で出来ているんだ
雲街に住んで思うのはね
地上もまた空なり
大切に積みあげたあらゆるものが
実は雲と変わりないんだ
地上もまた空なり…か


すべては
雲のように
流れて消えていき
また
新しく
湧いてくる
昔 旅で会った男が
言っていた言葉
「雲カラ
カヲモラエ」とは
このことだったのか
消えても
消えても
湧いてきて
フワフワ
フワフワ
どこまでも
流れていく……
あいつこそ


雲なんだ

第三話　トラマルア 前編




う〜
暑ーっ
…ありゃ
なんだコレ
雲の像だな
見たことない顔だが偉い奴かもしれないぞ
偉い…
かき氷の大食い記録男かな
あっ


パンツ知ってんのか?
これはガラゴラ博士だろう
ガラゴラ博士?
ああ 200年程前に銀しぶき海の星鳴島に住んでいた学者だよ
小舟に乗って遭難して亡くなったと言われている
ほう
お主博学じゃのう
ハクガクじゃないのよ
「もの知りパンツ」って奴なのよ


わかる？
こいつは無学か
ポン
ポン
どうしてここにガラゴラの像があるのですか？
記録によると彼は遭難して大陸まで流されたあとトラマルアを追ってこの雲街に来たと言われている
にゃっ？
トラマルア？
ねえ？トラマルアってなんだ？
知らない…聞いたことのない言葉だ
ゴオナ
ゴオナ
トラマルア接近中
トラマルア接近中


大変だっ
早く逃げろっ
やられるぞ
なんで逃げるのよっ
オレは逃げないわよーっ
とにかく逃げよう
ああ
あっ
ダメだっ
ふせろっ
え!?
うわっ
バウッ
あっ
あーーっ
テンプラッ


ぐわっ
わわっ
しびしびしび
あっ
ヒデヨシも
やられたっ
…もう
だいじょうぶ
トラマルアは
行ったよ
ふう
パチッ
パチッ
…はあ…
だいじょうぶか
テンプラ…


テン…プラ
テンプラって なんだ?
えっ!!
おまえの名前だろうっ オレが誰か わかるか?
…わからない
ちょっとォ なにすっとぼけてんのさ テンプラ パンツだろう パンツッ
誰だ おまえ
なんで 笑ってるんだ?
あはっ…
おもしろい顔



あはははは
コラ
どーなってんのよ もう
トラマルアに記憶を吸いとられたんだ
吸いとられたっ
しかし どういうことだっ その太った猫
トラマルアにやられたのに平気じゃないか!?
吸いとられるほどの記憶が 無いのです
はあ?
ところでトラマルアってなんですか?



それを知るには うちの店の 雲海パンを 食べて下さい
雲海パン!?
んめーーっ
ああっ フワフワ 口当たりがやわらかで
なかなかの 味だな
え? おまえにしちゃ めずらしい
う〜〜っ 腹が熱い…
そういえば オレも……
んっ
うーっ 腹いっぱいだ


らっ
でっかいクラゲ
これが!?
ああ
トラマルア……
雲海に棲息する
透明なクラゲだよ


こいつがオレと
チンプラを
しびれさせたのか
そうだ
昔は おとなしかった
らしいが……
あれ
そういえば


ガラゴラはクラゲの研究家としても有名だったぞ…
いかにも
このトラマルアを発見し 知的能力を進化させたのはガラゴラ博士なのです
そうだったのか
あははは
フワフワくねくねあははは
ちょっとォいいかげんに元にもどれよ
無理だっ 今までクラゲにさされて記憶をぬかれ元にもどった者はひとりもいない
ええっ


もどった者はいない…
んなもん
このクラゲどもをぶちのめしてしまえば元にもどるだろう
ぶちのめすなんて!!
トラマルアは高等なんだっ言ってることがわかるんだぞ
早く謝れ詫びを入れろ
なんでクラゲなんかに謝るのさっ
オレが成敗してやるぜいっ
ヒデヨシうしろっ


ビビシッ
ぐわっ
ビビシッ
ギョエーーッ
ダメだ……もう……
言葉すら話せないだろう
だいじょうぶか
ヒデヨシ
ハガ……
ホエホ
ああっ
……


さすがのヒデヨシもやられたか
…ホ…ゲ
どこっ
どこなのっ私のマグロちゃんっ
あっ
こんな所に紅マグロが
なんだおまえ!?平気なのか
やっぱりな…演技ですよ
うーっ紅マグローッどーこーっ
演技ってどうして演技なんか?
たぶんボケたふりして店に入ってタダ食い作戦です



もくくくっ
どーしてお見通しなのさ?
おまえの考えてることなどミエミエだよ
あはははミエミエさーッ
うーーっ
ずーっと笑ってるって
バカみたいだなあ
しかし 本当に元にもどすことはできないのですか
もどった者はいないんだ
あのガラゴラ博士でさえトラマルアに記憶を吸いとられてしまったんだから
えっ ガラゴラが!?
ああ
博士の研究したトラマルア論文は雲街図書館にあるが……
あそこに行くには…流雲堂のウドンを食わないとね
食べましょう


ら
ウドンがクラゲに食われているぞォ
ケッ
フワン
フワン
タカリ屋のお帰りじゃ
タカリ屋？
オヤジクラゲにたかられてるのか


ああ アイツに食わせないと
うちに来るお客を襲ったりするからな
まっとにかくオヤジッ大盛り5杯っ
クラゲになるとタダで食えるのか…
ふーっ うまかった…
あれっ?
うくくくっ
どうしたヒデヨシ
1杯しか食ってないじゃないか
あははは残してるーっ
変なのよーっ腹いっぱいなのよーっ
もう食えない
残すなんて…くやしいっ



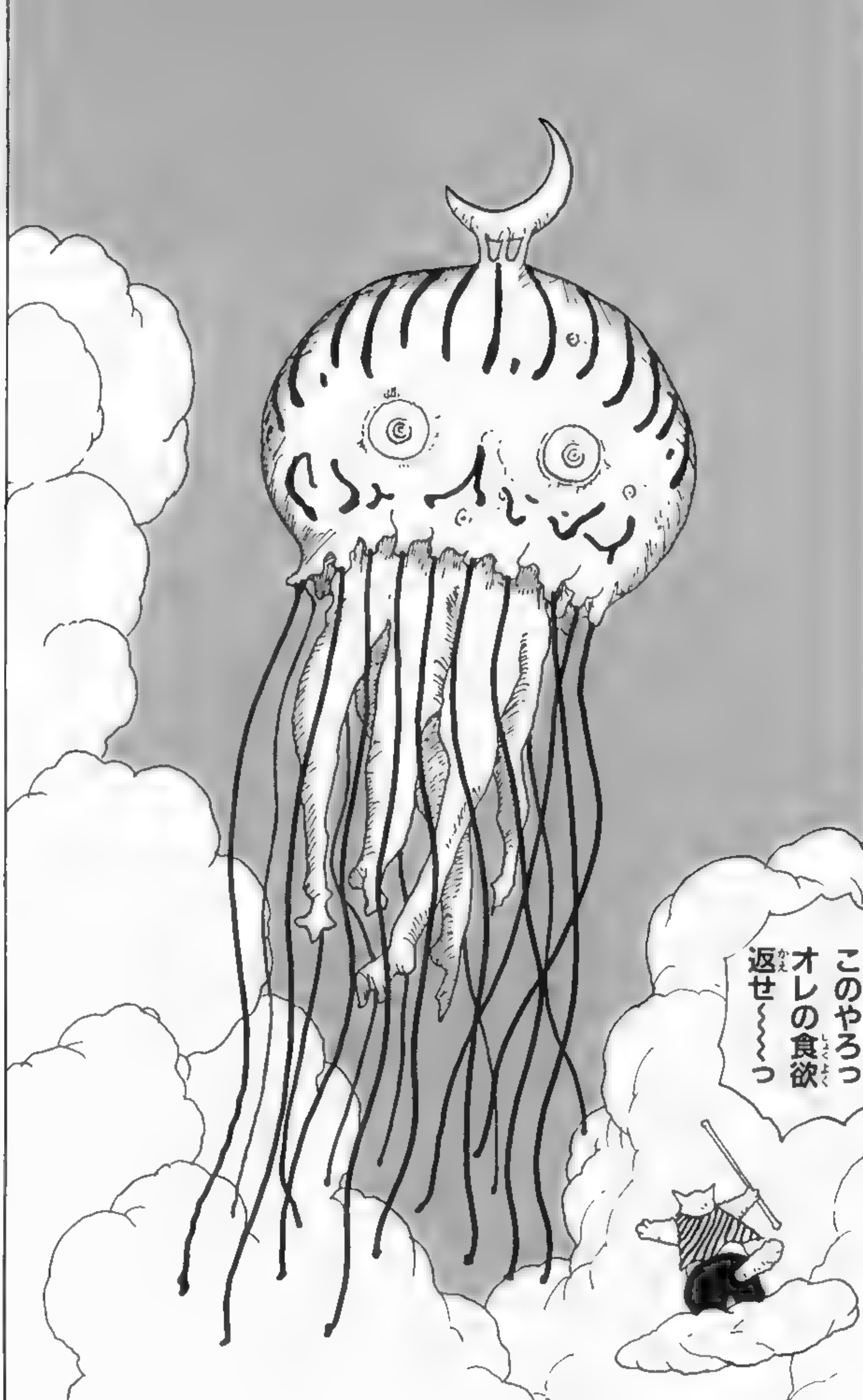
泣くほどのことか
泣くほどのことです
どういうことだ 大食漢のヒデヨシが食欲をなくすなんて
…そうか… さっきのトラマルアにやられたんだな
ら?
ああ
食欲を感じる神経を吸いとられたのさ
あらまっ
やられたって… まさか
吸いとるほどの記憶が無いからといって…
あはははっ
吸いとられた 吸いとられたっ


くっそおっ クラゲの野郎
オレの食欲 返せえっ
食欲神経を 吸いとられた… となると
痩せ細って フラフラに なるなあ
見たい
ぶちめのしてやる
絶対 ぶちめのしてやるぞう
「ぶちのめす」 だろう
言葉神経も やられたのか
ぶちのめすったってよっ マジュウゲラ様を 倒せるわけが ないだろう


マジュウゲラ様?
ら
フワラン
ウドンが消化されて効いてきたのさ
スゴイな
雲が思った方向に動くぞ
オヤジ
これ借りるぜっ
ちょっとそれは商売道具っ
ぐががが


成敗してやるっ
クラゲどもっ
みーーーんな
ブチのめしてやるぜ
と
言ったはいいが
あんなにいたのに
どこに逃げたんだ？
おーい
ヒデヨシ
雲街図書館に
行こうぜ
えーーっ
図書館


ん
あれか図書館って
気をつけろこのあたりにクラゲの親分マジュウゲラ様がいるぞっ
あはは
らっ
うわっ
なんだコレは!?
マジュウゲラ様だっ
ガラゴラ博士の記憶を吸いとり多くの者の知恵をたくわえた王様だ
すご…


このやろっ
オレの食欲返せ〜〜っ

第四話　トラマルア 後編




クラゲてめーっ
知性度…
下劣
なんだと コノヤロ
さっさと オレの食欲返せい
言語表現劣悪
ぶっとばす


ぐわっ
ビビッ
シュッ
おりゃあ
クラゲ汁にして食ってやるーっ
ホウ…気絶シナイトハ
意識ノ強サハ誉メテヤロウ
ナラバコレナラドウダ
にゃあ


ら
コノヤロッ
タコなんかに化けやがって
オレから
逃げようったって
そーはいかないわよ
おりゃ
わっ
やめろっ ヒデヨシ
オレだよオレ
なんだコノヤロ
パンツみたいな声
出してっ


なに言ってんだ
オレはパンツだぜ
ら
タコが消えた…んっ
クラゲの親玉どこへ行った？
あの雲の陰に飛んでいったよっ
おのれ——っ
逃がすものか
待てヒデヨシ
それより図書館に行こう
図書館なんてツマランのにーっ
フーム


これか……
ガラゴラ博士が書いた「トラマルア論文」は
ら
図書館なんてこの世で一番つまんない所だべ
クラゲが本読んでるぞ
コノヤロッ オレの食欲返せっ
待てっ
奴は温厚なクラゲだ知的なんだよ
フーム…トラマルア（クラゲ）は博士の研究によって
どんどん知的になっていったのか…
あはは


あははっ
テンプラ
なに読んでんだ？
これ
タコの絵本かよ
こんなもの…
わははは
ははははっ
うははは
あれ
これは…


…だめだ…
じぇんじぇん腹減んねえ
ウドン1杯も食えないなんて…
痩せるぞ
痩せるどころか餓死するな
餓死!!


いやだーーっ
餓死ダメーーッ
パンツなんとかしてくれっ
おまえの餓死は見ものだがテンプラをなんとか助けないとな…
お客さんなにを読んでるんだね
図書館の中にあったガラゴラ博士の日記です
「マジュウゲラが最近 知的になりすぎて反抗するようになった」
「やはり プンツラを使わないと」…


この「プンツラ」という言葉が判らないんだ
プンツラというのはこの辺の方言でね
方言
なんだっ あれが プンツラかよ
こんなものでクラゲの親玉倒せるのか
博士の日記によるとこれを使って服従させていたとあるからね
7日後


こら——っ
マジュウゲラ
どこにいるっ
オレの食欲
返せ〜〜〜っ
しかし ずいぶん痩せたなあ
7日食わないと
あんなに痩せるかねえ
ふだん 相当の馬鹿食い
してますからねえ
こりゃあホントに
餓死するかもな
あはははっ
餓死
ヒデヨシ餓死
あっはっはっ


こら テンプラ てめ〜〜っ
おまえを助けるためにもがんばってるのよっ
あっ
おっ
見つけたぞっ マジュウゲラ
貴様を断固ぶちのめすっ
ズイブン細クナッタナ
オマエノ食欲ヲ吸イトッテ…
私ハ食ベルコトガコンナニ楽シイト知ッタ
やかましいっ 返せってんだ オレの食欲


イクラヤッテモ
私ノ相手デハナイ
ぐわ
バチッ
とおっ
ペタン
しびしび
しびっ
くっそお
いよいよ
パンツがつかまえ
たやつを…
こら クラゲの
親玉っ
これなーんだっ


蝶
そうよっ
チョ〜〜〜ッ
ヤメロッ
離レロ
ドッカへ
行ケ
ホーレ
ホレホレ
こすりつけて
あげましょう
パタパタ
ギャ〜〜〜〜ッ
ヤメロ
ヤメテクレッ
んなら
オレの食欲
返すか
返スッ
返スッ
テンプラの記憶も
他の猫たちの記憶も
返せっ


ワカッタ
んっ
ピッ
らっ
ぐーっ
ひっ
ひもじ〜〜っ
あれ…
……なんでこんな所にいるんだ？
おっ
パンツ…確かオレはクラゲにやられて…


テンプラの記憶がもどったぞっ
こらクラゲ もう二度と みんなを襲わないか
ワカッタ 約束スル 早ク蝶ヲ ドケテクレ
よーし
では最後に もーひとつ
「ポワフワ」とかいうの オレにくれっ
遠イ昔 がらごら博士ガ 欲シガッタ モノダナ…
イイダロウ オマエニ サズケヨウ
バチッ
う
ビッ


サラバ 小サナ怪物ヨ
いーかっ 約束守れよっ クラゲ親父
んっ 誰だおまえ …ヒデヨシ？
そーだよっ 記憶もどってないのか
なんで痩せたんだ？
痩せたおまえってみすぼらしいな
この――っ
などと言ってる時ではない
腹減ったのよォ
さあさあ
たんとお食べ下さい


貴方はこの街の恩猫様
記憶がもどりましたありがとうございます
ゾルゾゾーッ
ポワフワってなんなのだね
博士の日記の中に出てくるのですが名前しか……
でも博士はそれを手に入れるのを楽しみにしていたらしいのです
はぁ〜〜〜っ食った…
見事な食いっぷり
ニコニコ



ウドン屋の笑顔 何日続くか……
街の恩猫様 なんてったら こりゃあ タカリ続けるなあ……
満腹だあーーっ
ら
なんだ これ?
ヒデヨシの体から 出たアワ…
これが 「ポワフワ」なんだろうか



んーーっ
あっ 食ったっ
ぱくっ
なんの味もしないぜ
自分の体から出たものをよく食えるなあ
3日後
さーさー ポワフワ玉だよーっ 銅貨5枚だよーっ
1つくれ
まさか 食うものだとは思わなかったな
ああ でも食べると なかなか いいもんだな


確かに
確かにそうなのだ
突然
色んなことが
おしよせてきて
どうしても
無理をしている
自分が苦しく
なる時がある
そして心の奥で
何かが叫び出すと
ポワフワが
始まる
あっ
そして


風に流れる楽しさを知る
ポワッ
フワッと
体がゆれるたび
不思議な音がする


ガンバラナクテイイ
ガンバラナクテ
イインダヨ
そうだ
もっと もっと


風を楽しもう

第五話　「食欲ノ秘密」




毎日毎日雲ばかり
あきるよなあ
ん。。
そーかっ
この雲に乗って帰ればいいのよ
さらば雲街ーっ


あれっ
あいつ帰っていくぞ
んっ
そろそろオレらも帰るか
いえ〜〜っ帰ってきたわよーっ
あっ
あーあヒデヨシだ
はーいお待たせーっ
誰もおまえなんか待ってないよ
いやひとり待ってる奴がいるぜ


ギョッ
借金取りかな
そーーっと行ってみよう
らっ
ヒジリヤマ
どーしたの
猫の目時計直しに行くんだけど
おまえの力が必要なんだ
いいよ
お駄賃は紅マグロ
2本
よーし決まったっ


なんでテマリも行くんだよーっ
うー
私は——っ歌姫——っ
テマリも紅マグロ2匹かあ
そんな欲張りしないよ
見てみたいんだゲッペンダムレ
テマリちゃんの唄も必要なんだ
ゲッペンダムレ?
時計の名前さ


凄い密林だなー
よーこそダンテルアへ
お待ちしておりました
アタゴオルのヒジリヤマです
ヒデバルスです
なにやってんのよコラ


ダンナさん
私がアタゴオル
最大の男
ヒデバルスです
う
やっぱり
連れて来なきゃ
よかつたかなあ
森の長老
ケモネですじゃ
それで
狂った猫の目時計の奴
どこにいるの?
これこれっ
「狂った」などと
言ってはなりません
ゲッペンダムレ様は
この森の王なのです
時計が森の王!?
支配者
なんですよ


時計なんかに支配されてどーすんのよっ
オレがたーーっぷりおしおきしてあげましょーっ
おしおきなんかいいから…時計を直すんだよ
ヒデヨシ 作戦を説明するからさ
作戦？
いいか おまえはタイコでさわいで時計を挑発するんだ
ヒソヒソ
ん？
ちょうはつってなんだ？
その姿がすでに挑発だろ



㊟じんだんダンゴ＝ゆでた枝豆をすりつぶして砂糖をまぜたものを「じんだん」と言う。


こいつが
ゲッペンダムレかっ
偉そーだなっ


あんなに振り子の舌が伸びて…
これは相当狂っているな
みっしゅみっしゅ
あっ
く〜〜〜っ
コノヤロッ
時計のくせにダンゴなんか食って
そのダンゴはオレのものだっ
おまえなんか鯨油でも飲んでろいっ



ピピキシュ
らっ
あっ瞳を見たらダメだっやられる
やられる?
ぐるぐるう
にゃっへえ〜〜っ
強烈な催眠光線じゃよ
ゲッペンダムレ様のドレイになってしまう…
普通の神経にはきくだろうが……
アイツにきくのかなあ
ゆらんこゆらんこっ


おおっ 偉大な〜〜っ 偉大な〜〜っ ゲッペさまあ
な〜〜んでも 言うこと聞きましゅーっ
なになに 「じんだんダンゴを やっつけろ」とな
もぐ もぐ もぐ
ふあいふあい いまっわっつけ まふ
あっ
やっぱり 催眠がかからない
あいつ… 馬鹿か?
馬鹿以上です
馬鹿以上!!


予ノ光線ガ
キカヌトハ…
大シタ奴ダ
ろっ
おはえ
はへへんほか
(おまえ しゃべれんのか)
凄いっ……
言葉を
話すなんて…
ヨネザアド大陸で
一番の時計造り師
パトパドバ四世が
200年前に作ったものだ


時計というより
一種の生物さ
テマリちゃん
これが譜面だよ
パトパドバ四世
作詞作曲
「ネジ巻き眠りの園」
こらっ時計
オレがたーっぷりおしおきしてやるわよーっ
トタ
スタンタ
トン


予ノ前デ勝手気ママナ拍子ヲ打ツトハ
時ヘノ冒瀆ナリ
うぐっ
あーーっ
痛でえ


植物が!?
この森の草木はゲッペンダムレ様の意のままなのだ
森の王ってそういうことか
このヤロー
葉っぱなんか使ってっ
も〜〜〜ゆるさん
雲ちゃん出ておいでっ
とおっ
スボッ
直してなんかやんないよっ


ボゴボゴに くだいて
バーラバラに してやるぜい
そんなベロに つかまるかよっ
テマリちゃん 今だっ
鯨のヒゲの――っ ゼンマイが――っ
うずまく空を 流れ行く――っ
ウッ
コノ唄…… 遠イ昔聞イタヨウナ…
時間の雲の 右左――っ


ポンピュラ・バボオル
リック・リュック・ラック
アア…眠イ…
ナント心地良イ…
ら
半眼になってきたぞ
歯車の谷
かけ下りてーっ
時間の枝の
分かれ道
歩けばゆれる走馬灯
ガンベラ・バボオル・リック・リュック・ラック
し〜ん
やった
眠ったぞ
凄いっ
ふっ


ホントに寝たのかな
ヒゲ引っぱってみんべ
ぐっ
馬鹿者ヤメロッ
せっかく寝たのに
ホントだわしっかり寝てるぜ
イエーッ紅マグロ2本いただきーっ
う
ぐっ
起コシテクレテ感謝スル
あーーっもうよけいなことしてっ


オマエ 紅まぐろ2本デ ヤトワレタノカ？
そうよ
予ノ家来ニ成ラヌカ
紅まぐろ食べ放題
食べ放題
……
あいつ裏切る気だ
まさかっ
一応 まよっている所に救いがあるけど…



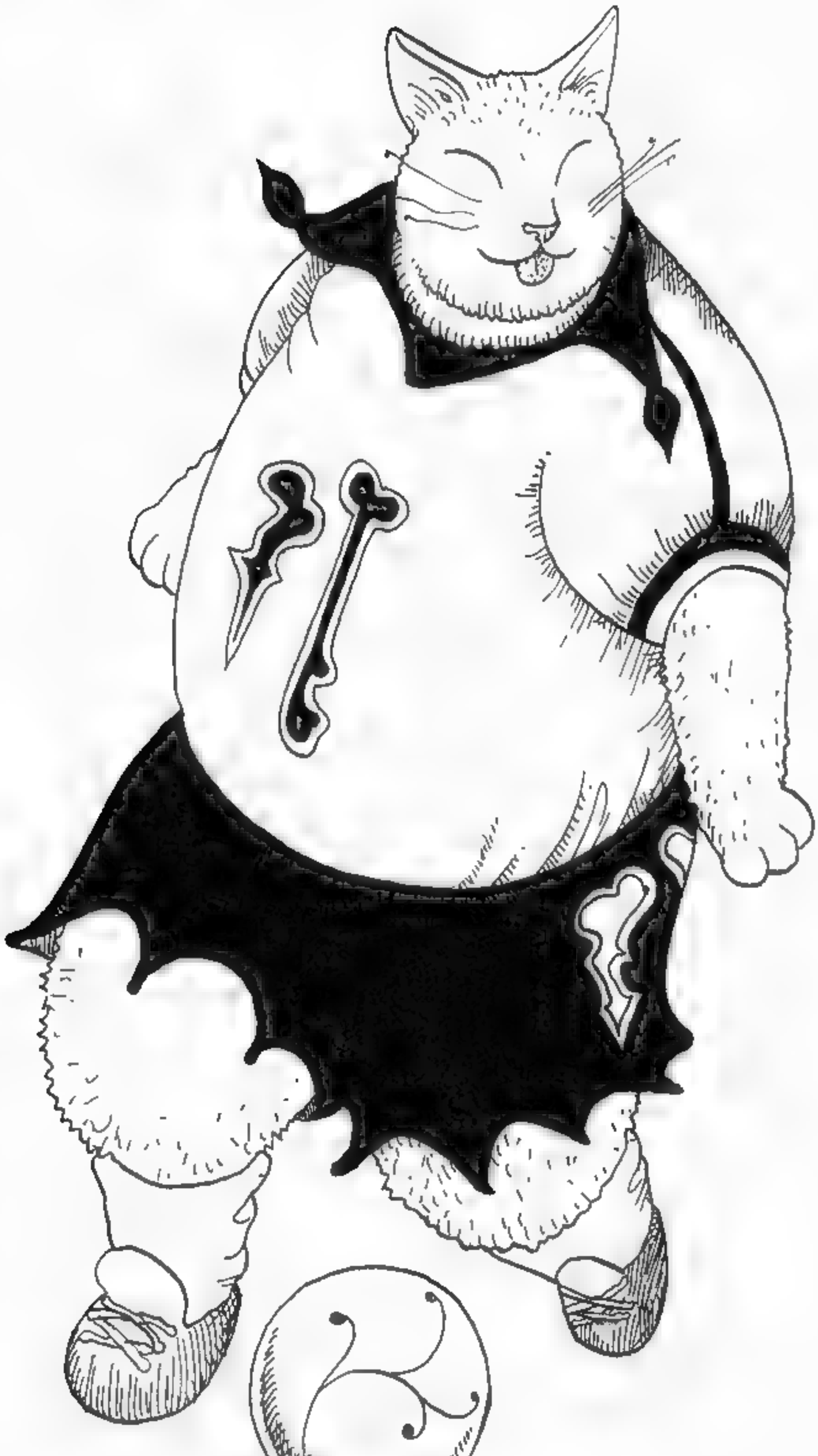
時計の王様殿ーっ
家来に成りましゅーっ
あ〜〜〜っ
ねっ
なんて最低な男だっ
紅まぐろ…
ソンナニ好物カ？
おう
酢ダコも
好きよーっ
……フッ
見エルゾ…
ソノ理由ガ


えっ アイツがいやしい訳が見える？
予ハ時間ノ王
過去ガ見エルノダ
にゃっ
あっ
らーっ
なんだコレは？
オマエガ生マレル前ノ姿
生まれる前？
アア 昔オマエハ



魚屋ノ紅まぐろノ前デ餓死シタンダ
がっ

第六話　キバキブ草(そう)




餓死
魚屋の紅マグロの前で餓死した男の生まれ変わりがヒデヨシなのかっ
こいつの異常ないやしさの原因はこれだったのか
ぺっ
なんだこんなもん
甘イ
甘い？
見ヨ


あっ
らっ
ヒゲ無し白黒猫の
頭の上に出てきた奴も…
魚屋の前で倒れている
餓死した奴の…その前も餓死
！



餓死が代々…
連なっている
餓死者の生まれ変わりが
ず〜〜〜〜っと…
ということは
やがては
ヒデヨシも!!
餓死!?


ソレガ
オマエノ
未来ダ
あれ…
餓死してる猫
みんな
ヒゲが無いぞ
死ガ近ヅクト
ひげガ
落チル
セイゼイひげヲ
大切ニナ
んぐっ
くぬぬ



くっそ――
なにが餓死だあ
食って食って
食いまくるわよォ
猫の目時計の
大王様
家来に
成ったぞっ
約束通り
紅マグロ
食べ放題
させてくれい
食ワセテ
ヤルカラ
ソノ前ニ
仕事シロ
仕事？
あーーっ


地味だよなあ
葉っぱに水やりなんてよォ
我ガシモベきばきぶ草ダ「水クレ 水クレ」ト鳴イテイル
これがキバキブ草かっ
キバキブ草？
狂った猫の目時計に寄生して繁殖する植物と言われているが見るのは初めてだ
なあヒジリヤマ
紅マグロ少しかじらせるから手つだってくれよ
やだよ



友だちだろ
友情を見せてくれたまえ
なにが友情だよ
まったく
食い物のために仲間を裏切ったりするから
いつか餓死するんだよ
時計にこき使われて恥ずかしくないの!?
うっ
なによっ
この草
あっ


おっ いいぞっ
キバキブ草 偉い
だめだよ テマリちゃん
その草は 言葉が 判るんだっ
ふう
オーイ 猫の目のダンナーッ
水まき したわよーっ
ナンダ モウ終ワリカ
イイカゲンナ 男ダナ
マアヨイ 好キナダケ食エ
と いうわけ なのよー


くっそおっ 猫の目時計の 手先なんかに なって〜〜っ
毎日 1本 いただくわ
く――っ
んめ〜〜〜っ
んますぎる〜〜っ
マグロも んまいが 地酒も 好きよっ
酒屋デ酒モ モラッテキタダト……
勝手ナコトヲ スル奴ダナ



酒トハ ソンナニ ウマイノカ?
腹がブワーーッと 熱くなって 体が ポヨ〜〜〜ンとして エ〜〜〜のよォ
飲んでみる?
んんっんめ〜〜〜っ
んぐっ
おっ 見事な 飲みっぷり
よーし もっと いけーっ


あーーあ
ウーーッ モット クレ〜〜ッ
イエーーッ 酒よっ 酒なのよーーっ
バシッ
バシッ
あーーあっ なんであんな奴連れて来たんだよっ
スイマセン
ンメーーッ
うーーーっ
ぐーーっ


ぐーっ
ぐーっ
ぐっ
ヒデヨシも
時計も
飲みつぶれたぞ
テマリちゃん
さっきの唄を
もう一度
鯨のヒゲのーっ
ゼンマイがーっ
ポンピュラ・バボオル
リック・リュック・ラック
眠った


ギイッ
凄い作りだな
精神部のネジがみなベロベロにゆるんでる
ヒデヨシみたいだな
ズズッ
ズズッ
おっ ベロが
縮んでいくぞっ
ふう
テマリちゃん
ではこの譜面唄って


時間の住処
たずね来るーっ
想い出河の水の底ーっ
おっ 振り子が動き出したっ
横目・下目の回転盤
流れる星の時滑りーっ
永久は永久とて ひとときの 眠りの園に 時よ舞え
ブリック・バジュック・ボウ
あっ
永久は永久とて ひとときの
おっ


眠りの園に時よ舞えーっ


リック
リック
ぐ～っ


おおっ
猫の目時計が
正気にかえった
なんだ
コレは?
アタゴオル
らんらら
らーーん
どうしたんですか
それ?
おみやげだよ
いい?


こうやって
さわると…
増える
だけなんだけどね
フフ
ボッ
ボッ
あっ
それキバキブ草だろ
どうしたんだい？
実は
猫の目時計を
直しに行って…
ヒデヨシが
さわると増えるんだ
…フーム
ヒデヨシが
時計の中で
眠ったのか


そいつは凄そうだな
凄い？
さーーさーーっ すんごい葉っぱだよーーっ
タン
タタン
いらっしゃいテンプラ
1枚くれ


では さっそく…
ふう
一瞬で
眠りに落ちた
なんと 深い眠り
なんと 心地のいい 眠り
こうしてキバキブ草は


ヒデヨシの
通り道では
よく売れたのです
耳栓してもつき抜けてくる
あのヒドイ音と馬鹿声の唄が
流れても
安眠できる深い眠り


そして
眠りの深さの中で
知るのです
この眠りは
ヒデヨシの眠り
本当に
遊んだ者だけが


本当に眠れるのだと

第七話　爆音草(ばくおんそう)　前編(ぜんぺん)




さあさあ始まるよーっ
カラーン
カラン
冬の風物詩だぞーっ
今年の勝利者はカツラ君かヒデヨシ君かっ
どっちが勝っても
どうでもいいんだけどね


そういうわりには
毎年 見に行くな
花びらが
落ちないかと
思ってね
えっ
あれが
落ちる？
ああ
爆音草が
オレは
アタゴオルで一番
どでかい
音を出す
男――っ
今年も
優勝だあっ
えーそれでは
ただいまより
「巨音競べ」始めます


審査員は爆音草です
それでは爆音開始
グオッ
ゲェッ
調弦しないから
きたないだけの
実に爆音です
おっ
やってるね



カツラーーッ
がんばれーっ
今年こそ
勝つのよーっ
ほほっ
ギ
ビーッ
おっ
テマリ
いいぞ
テマリ
くっそお
テマリの野郎
あーっ
ヒデヨシ君
怒りの爆音
くっ
くっ
おーっ
わっ
爆音草が


ヒデヨシに傾いたぞ
いえーっ来いっ来いっ
グウーー
ごっ
よしっ一気にたたみかけてやるわよっ
ゲゴ
むががっ
こうなったらカツラあの作戦を決行するんだっ
ごっ
とお


ありゃ
ギター投げたぞ
バフッ
わはは
とうとうヤケ起こしたな
んっ
だん
だーーっ
ドフドフ


ギギギ
ボボボーー
ドドド
ご
スッ
らっ
あっ
ビッ
爆音草の花びらがちぎれたっ
凄いっカツラ君


今年の巨音競べ
カツラ君の
優勝でーすっ
カラン
カラン
カツラ落とし
かよ〜〜っ
ぐやじ〜っ
さーっ これで
ヒデヨシは
ドラネコ団の家来だぞ
それにしても
爆音草の
花びらが
吹き飛ぶなんて
あれっ
あの花びら
フワフワ
流れて
行くぞ
…どうなるんだ
パンツ?
古代植物誌が
正しければ…
花びらの凄さを
知ることになる
凄さ?


凄さなんか どーでも いいべよォ
では まず ダンゴ おごれよな
翌日
ありゃ ヒデヨシ なにやってんだ？
たき木 拾いだよ
おまえが たき木拾い？
カツラに負けて オレたちの家来に なったのさ
ホラホラ ヒデヨシ
あそこに 枯れ枝が あるぞい
くっすおう
んっ


よっ
なにやってんだ?
爆音草の花びら捜してんだ
んなもんいいから たき木拾い手つだってよォ
オレはドラネコ団員じゃないんだよ
しっかり働きたまえ
あっ
あったぞ


花びらがつきささって
樹氷の先に変なものが出来てるぞ
ううむ
これは…


どうなってんだ パンツ
樹氷を見るな
えっ

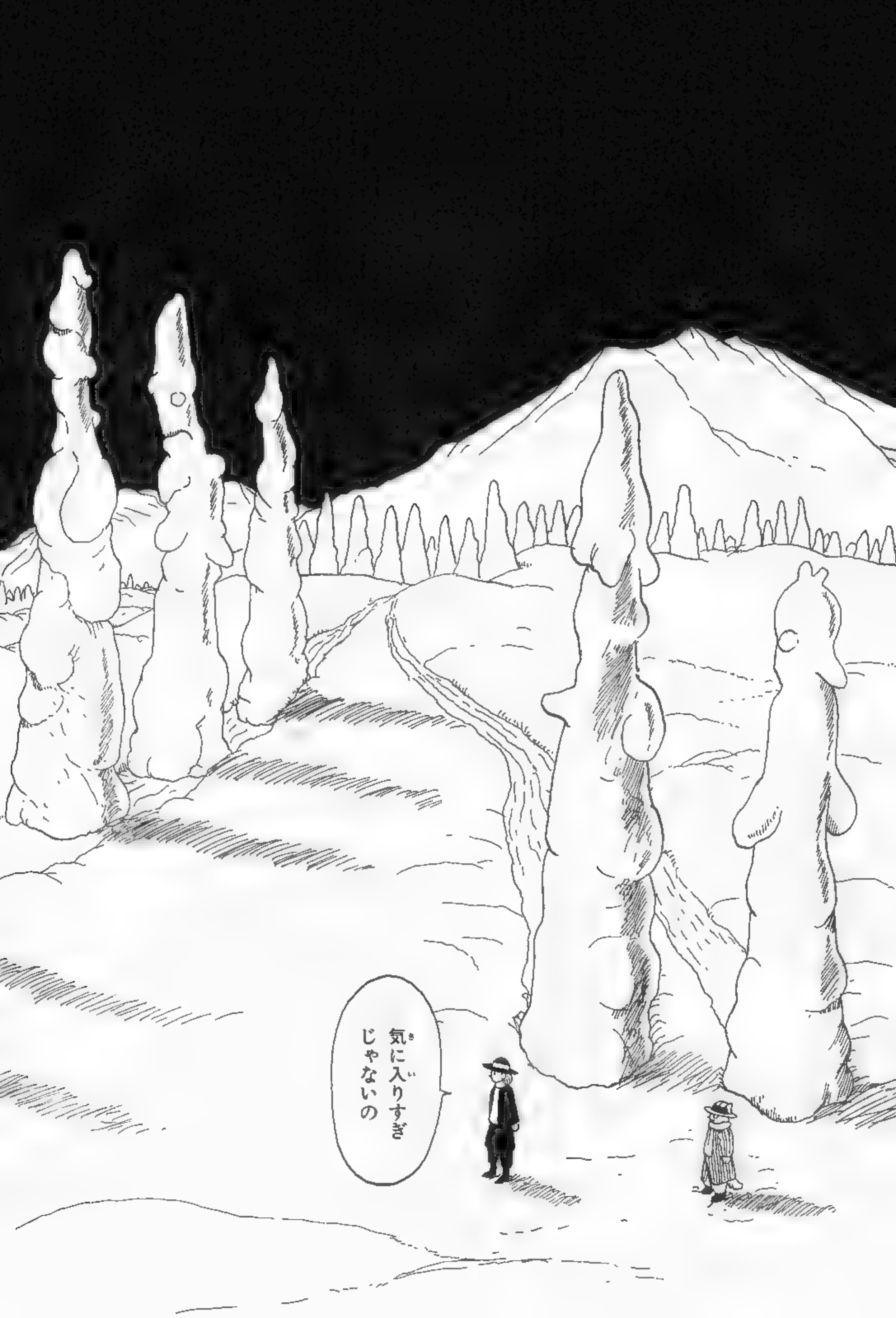


見るな なんて 言われると 見たく なっぺよな
ああ オレたちは 言うこと 聞かん猫だぜ
これなんか ウサギに 見えるよな
ああ 見える
見ても いいけど
けっして 気に入っちゃ だめだぞ
へっ
どうしてさ?
どうしてもだよ


とにかく この森から 出るんだ
イエーッ たき木拾い 中止ーっ
森を出ても たき木は あるぜ
ううっ
見ても 気に入るな なんて言われると
…気に入ったら どうなるんだろう
ごつ
気になって しまうよなあ
ら


ズズッ
ズズッ
わっ
この木
ついて来るぞ
う
ズズ
オレもだっ
なんでだっ
なんで
ついて来るんだっ


あ〜〜〜あ
だから気に入っちゃダメって言ったろう
そういうパンツも
えっオレも
ズッ
にやっ
色んな型があるから気に入るなって方が無理かもなあ
そーそー気に入っちゃうものはしょーがないのよ
それにしてもあいつ


気に入りすぎじゃないの




ゾロゾロ引き連れて行くなあ
なんだか体が寒くなってきた
まずいっ始まったっ
始まった?
ああ
まるで氷みたいだ
ゴッ
確か解放の呪文があったはずだっ
…ベズ…
ベズ・メラズ?
ええと…

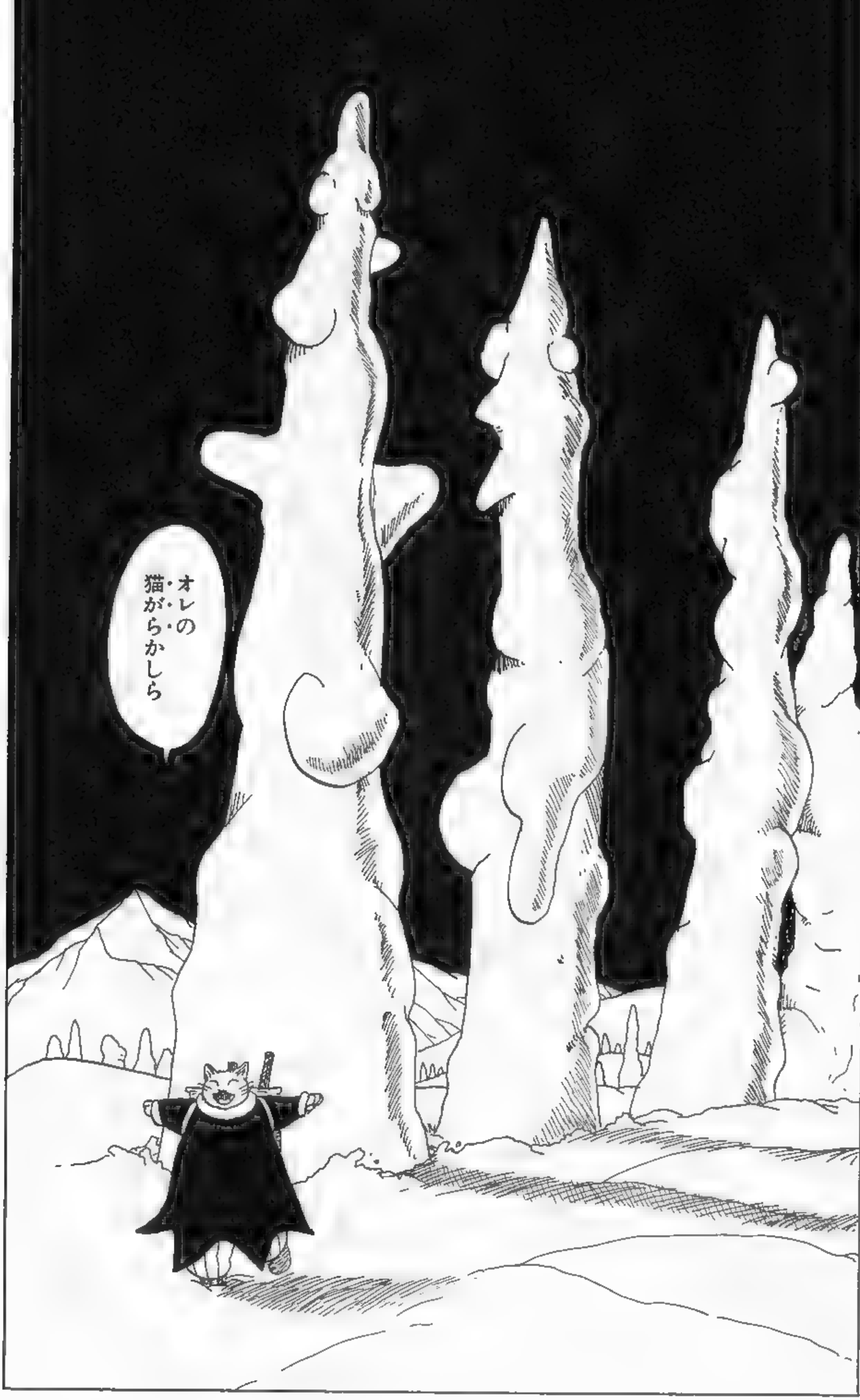

しーん
し〜ん
ゴッ
親分親分
しっかりしっかりっ
ヒデヨシーッ
来──い
にゃ?



ズッ
ズッ
全体 左に回れい
どーした カツラー
親分 変よ
おまえの親分 いつも変だよ
おいブチ丸
ぎゅっ
ぐっ
死んじゃいないな
なんだ テンプラも パンツも どーしたんだよ
みえみえの芝居して オレを だまそうったって そうはいかないわよ


ホラホラ 早く粉雪亭に行こうぜ
ドドッ
フラ
フラ
ヨロ
よーーし 出発ーーっ
ゴッ
木がついて来ないよォ
ついて来なくたって いいべよ
その点 オレのは こんなに… ウフッ
これって やっぱり

(注)猫がら＝ひとがらの猫バージョンです。



第八話　爆音草（ばくおんそう）　後編（こうへん）




なんだ
あれは
あっ
ヒデヨシだっ
あいつの うしろで
動いてるのは…?
ズズッ
樹氷だっ
樹氷が動いてるぞっ


イエ〜〜ッ
ついて来るーっ
ついて来るーっ
樹氷がズシズシ
ついて来るーっ
フラ
ほらほら
テンプラ
もう少しで
粉雪亭よっ


……
えーっ
樹氷がついて来た!?
ウソでしょう
ウソじゃないよ
ホントよ
ヒデヨシが言うのは信じられないけど
カツラ君ならホントだね
どうしてついて来たんですかっ



そんなのパンツに聞いてよ
そーいえばそーですね
……
……
あれーっ
どうしたんですかなんか変ですよ
ふてくされているのよ
ふてくされてる？



オレには樹氷が6本ついて来たけど
テンプラたちは地味だから1本でさ
それが途中からついて来なかったのよ
そーそー
ついて来ないもんでふてくされて
口もきかないのさ
なんか気がぬけたみたいだねえ
ねえ パンツ君どーして樹氷がついて来たりしたんですか?
……
それはだなヒデ丸
爆音草の花びらのせいなのよ
えっアレが?


あの花びらの力のせいで樹氷の森の木がおかしくなったのよ
木の根がタコのようにクネクネと踊り出し
コレ ヒデ丸どこへ行く？
あとでパンツ君から聞きますっ
ヒデ丸えらいねえ
とーとースミレ博士は誰にも相手されなくなったとさ
テマリ君失礼じゃないかその発言っ てっ…てっ てっ——っ
撤回…だろ



そーよっ
撤回したまえ
あれっ
親方
バイオリンが
輝いてますよっ
おおっホントだっ
キプラペプラ製の……
でも どうして輝いたり
するんだろう
緑色の光
だね
キプラペプラ製…
キプラ
ペプラ？
変な名前だのう
食べ物かな？


島です
銀しぶき海に浮かぶバイオリン職人がたくさんいる島です
バイオリンばっかり作ってる島か…ツマランのう
ワシについて来る樹氷の木の方がなんぼか面白いわ
ホントに動くのか見せてもらおうじゃないの
おっほっほっ
ズッ
ズッ
ズッ
凄いですね
ホント



樹氷を引き連れて…
なんとも風情がありますなあ
それにしてもテンプラ君たち
どうしたんだろう
3日後
ちょっとお
テンプラにパンツにブチ丸
いいかげん自分の家に
帰れよォ


パンツーーッ
食ってばかり
いないで
本でも読めよォ
ガッ
ガッ
いつも
自分が
言われている
ことを
言ってるねえ
でも
親分
変だよ
嫌いな
野菜
食ってる
ガッ
ガッ
確かに
変だねえ
医者に診せた方が
いいかもね
待たれよっ


あらっ 唐あげ親父
どうだね ヒデ丸
あっ
輝き出しましたっ
やっぱり
このバイオリンが反応してるんです
反応？
やっぱりって なにがっ
んー


これだよ
フーム……
これがテンプラ君たちに
ついて来た樹氷か
そうなのよっ
でもテンプラたちは
オレみたいに
熱い心が無いから
樹氷がついて
来ないのよーっ
なぜ ついて
来ないのか?


そして
なぜ このバイオリンが
輝くのか
私の旋律が
教えてくれよう
いつもながら
凄い旋律だなあ
あきるんだよなあ
こまかくてさ
なに聞いても
同じだべよ

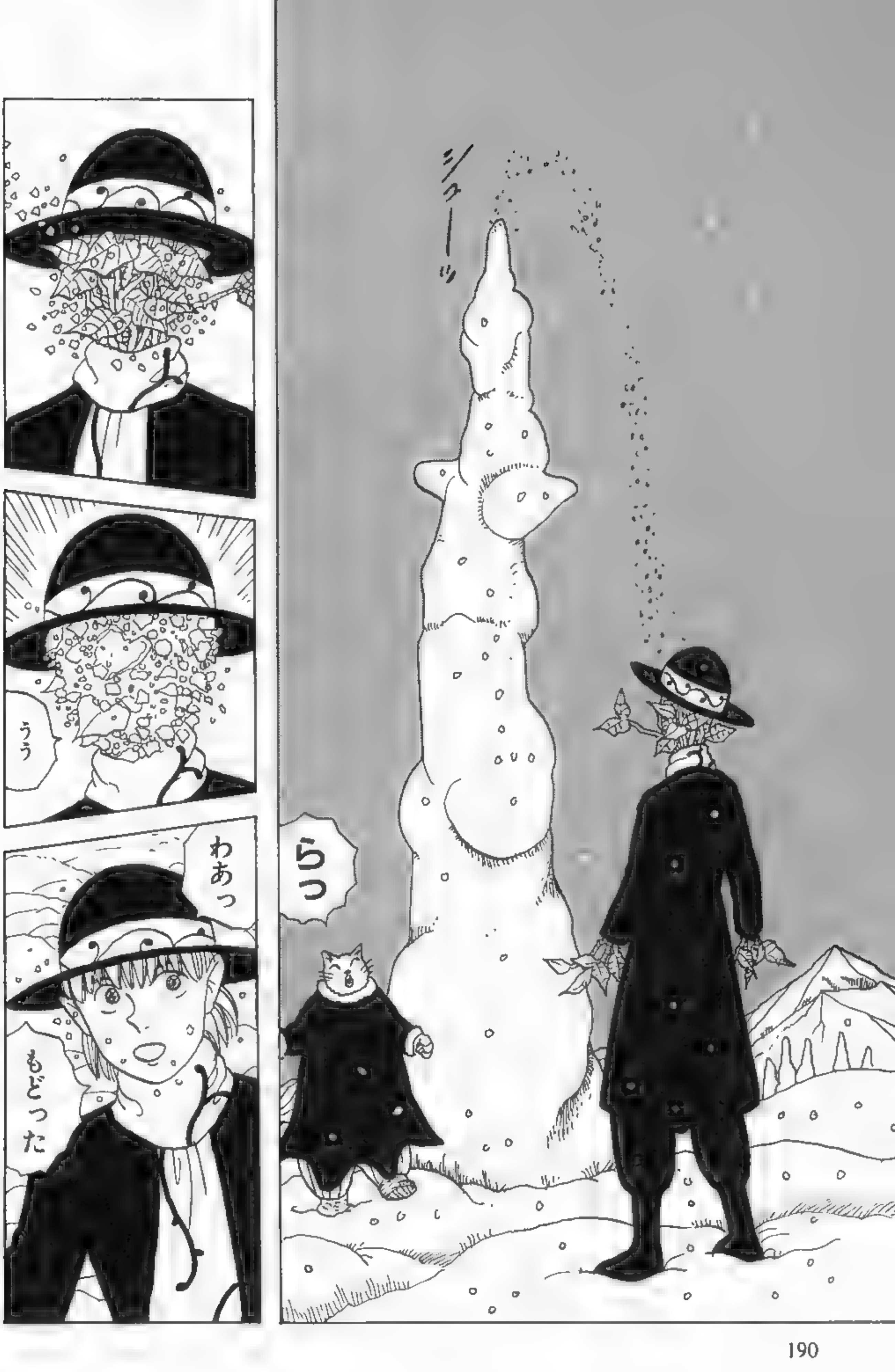

キプラペプラ製って
音が丸まった感じが
するなあ
ゴッ
あっ


きっきっ
木だっ
いったいどうして？
ゴーーッ


親分が木になったあ
ダメーーッ ダメーーッ
確か……
途中まで樹氷がついて来て… ここからついて来なくなったって
そうよ それがどうしたの
もしかして…
ん？
テンプラ君たちと この樹氷の木 入れ[redacted]わったのでは？
え!?
入れ替わった？


それじゃあ この中に テンプラ君が 入ってるんですか
よーし 今助けて やるぜい
とおっ
ゴッ
ゴッ
ガチガチに 凍ってるわ 熱湯 ぶっかけないと ダメだな
なにやってんの ヒデ丸
中から なにか聞こえる ような……
ペタッ
ん？
ペタッ


「ベズ・メラズ ブムメラモ」と 叫んでくれ
よーーし 判った
ベンベン バラバラ ボンボカボン
なんか ぜんぜん 違いますよ
そー 憶え悪ーっ
憶え悪ーだとォ カツラ このやろ おまえ 言えるのかあ
ペタ
んー…
ベズ・メラズ ブムメラモ


シューーッ
らっ
うう
わあっ
もどった


カツラ ありがとーっ
えへ えへ
しっかし 相変わらず
憶えが 悪いなあ
おほほ
4日後
樹氷の中にいて
じっとしているって どんな気分なんですか
不思議な もんですよ
木が抱えている 大きな時間の流れに 乗っているような…


大きな時間の流れ……
シューーッ
そういえば ヒデヨシの樹氷 まだ ついて来る みたいだな
ずいぶん しつこい樹氷 だよねえ
まあ おかげで 助かっている者も いるみたいだけど
でも 似てくるって いうのは 問題だよ
確かに そうだね



いらっしゃい
半生イカ
おいしいよォ
んっ
おまえが
近くにいるのは
判ってんだよ
くつそお
おいっ
ヒデヨシ
隠れていたって
バレバレ
だぜっ
ねえっ
ちょっとっ
いいかげんに
してよっ
テンプラに
テマリに
パンツ



アタゴオルは猫の森⑪　おわり

ますむら・ひろし先生の最新情報はホームページ

「ごろなお通信」

をご覧ください。

イベントや新刊の情報、日頃の創作活動など

楽しみいっぱいです。

http://www.tiara.cc/~goronao/



アタゴオル余波11

ますむら・ひろし

「落とし穴は、アクビをしながら、君が来るのを、いつも待っている」。

これは「雨になりたい」という私の歌の始まりの部分。生きていれば、いいことばかりが続くわけではなく、突然降って湧いてくる厭な出来事も、待っているのだという歌詞だが、数日前のこと、私は浅間山の近くのスキー場でスキーをしていた。すると突然、後方から凄い勢いで男が滑り降りてきて、おもいっきり衝突してきた。右側に滑り降りていた私は足払いのように吹っ飛ばされ、右腕に激しい痛み。病院での検査の結果、右肩を骨折。あばら骨にはヒビが入っていた。

雪国生まれの私は、子供のころからスキーをしていたから、スピードを出す怖さは知っているし、ぶつかってしまいそうなときは、自分から転ぶ。そのことによって衝撃の度合いを落とすということを知っている。だが、そうした回避をせずにスピードいっぱいのまま近づいてくる姿を、一瞬右後方に振り返って見たときの恐怖感。それは、車が接触してくるときのような、「うわっ、やられる」というものので、ほんとに「死なないでよかった」と、あとで思ったくらいの激突だった。

今、僕は三角巾で右腕を吊った状態。そして「アタゴオルは猫の森」の来月号（2007年4月号）は、腕を動かすことできないので休載となってしまった。三十年くらい締切り生活していて、初めての休載。実に残念無念である。災難は、突然やってくる。そしてそれは、どうあがいてもやってくる。不条理な形で、あるいは理不尽さを引き連れて。

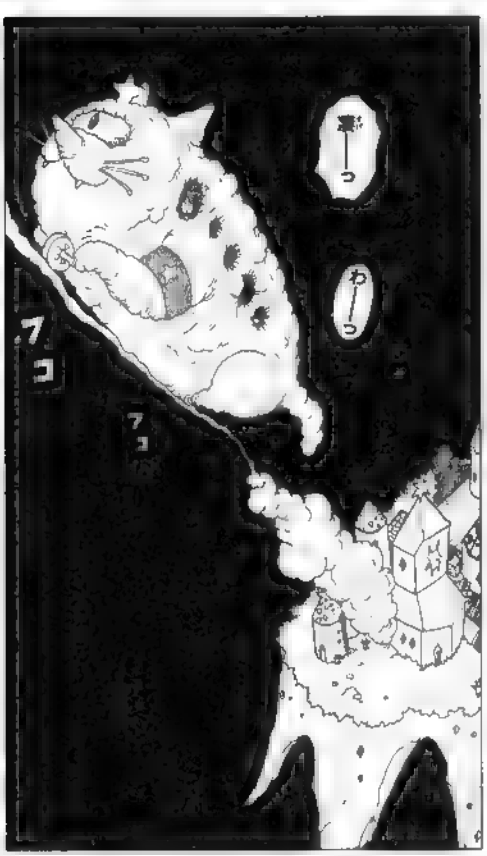
だがこんなことも、モノ描きの道ならば、すべて糧となるのだ。頭のなかには、噴火したいほどの想いと鬱積があるけれど、すべては時間の層のなかで、糧として発芽していくのだ。怪我したことで、たくさん読者たちから、心配のメールや花やお見舞いの品々をいただいた。テーブルに置いた花の籠に、春の日差しが当たるなか、ムッシャリとパッテラを食べ、ふたたび「どしゃぶりの雨」になるべく、この

の落とし穴を這い出すのだ。びす・ひろし、びすか・アタゴオル。

それでは、作品たちへの多少の説明を。

『OHかき氷』。表紙が泣ける。FCバルセロナが欧州チャンピオンになって、トロフィーを揚げているプジョール・唐あげ丸とヒデヨシ・ロナウジーニョの図。この光景が起こったパリのサンドニ・スタジアムに私は居た。居たには居たが、チケットが無くて会場の外で多くのサポーターたちと飲み屋のテレビを見ていたのだ。しかも、この光景の瞬間など、あんまりみんな騒ぐものだから、バルの親父が怒ってテレビ消したりして、ライブでは見ていないのだ。現場に近づけば近づくほど、実は見られないことがあるという、いい例だ。さて作品のほうはといえば、三月四月五月と三カ月間に二度もバルセロナに行き、その後に描いたもので、生活はバルサ祭りの後の時期。取って返して今度はドイツに行ってしまう隙間に描かれたもの。飛行機に乗るたびに見る雲海。その広がりを見ながら、この光景をいつか漫画にしたいと思っていたものだった。雲の軽便鉄道。その車両の前輪腕に巻かれた星の腕章、これが、どこから来たかといえば、プジョールの腕に巻かれた。雲の軽便鉄道。その車両の前輪腕に巻かれた星の腕章、これが、どこから来たかといえば、プジョールの腕に巻かれたカピタン・マークの印象からなのだろう。日々いろんな風景やオブジェ







を見ているうち、何故かフワッとペンの先から描かれだす。まさに何故かであり、軽い無意識による選択なのだ。

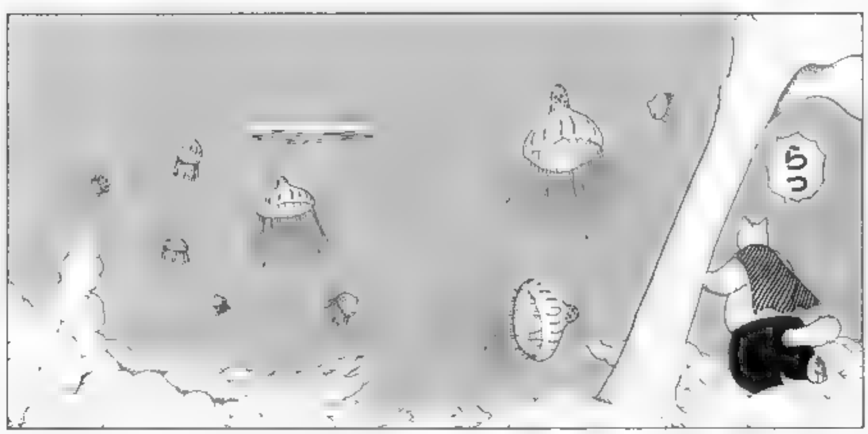
『雲ノ瞳』。高所恐怖症である。筋金入りである。最近は益々その恐怖感が酷くなっている。なのに不思議なことに、絵を描くとき、こうした高所を描きたがり、描いているときは平気なのだ。まったく気持ちというものは、不思議なものだ。さて物語のなかの言葉なのだが、毎回いろいろと考えても、後でいいなあと思うのはそう無い。だが今回の見開きの場面の「そうか、ここから見れば、地上は雲で出来ているのだ」は、気持ちのいいものだ。今こうして作品を振り返ってみると、この作品を描かせた力は、「銀河鉄道の夜」のとあるシーンからきていることに気づく。影響とは、気づかないうちに受けていて、気づかないまま、次の部屋に移動していくことがあるのだ。ではジョバンニの行動のどこの場面か、そんなことを思いながら、「銀河鉄道の夜」を振り返ってもらいたい。私は宮沢賢治の作品から、いろんな信号をもらってきたが、できるだけ「横滑り」のような安易な引用は避けてきた。しかし、この雲街において、パンツは言う。



「昔、旅で会った男が言ってた言葉、「雲カラ、力ヲモラエ」とは、このことだったのか。」

旅であった男とはもちろん、宮沢賢治であり、彼の発した信号を受信したことを描いたのだ。だからたぶん、賢治が見たであろう岩手山の上空を泳ぐ雲たちの壮麗さの隣に、ホンワリとヒデヨシ雲は浮かんでいるのだ。

『トラマルア』。前編の表紙は、映画公開が近づくので、アタゴオル的映画監督の感じにしてみた。後編の表紙は、YOKOHAMAなどというスペルの図。これは何かといえば、私が近年世話になっているフットボール・チームのユニホームに付けるエンブレムなのだ。一年も前に注文を受けて、やっとこ描いたら今度は、タコの図のあたりに酒瓶とトックリが欲しいなどと、描きなおしの要求をしてくるという恐ろしい注文主なのだ。さて、物語の素材として本日のフライパンに乗ったのは、くらげです。くらげのホワッホワッとした動き。その姿の華麗さ。見ていて飽きないというか、



一度くらげになってみたいと思うくらい、気持ちよさそうに揺れている。そうした気持ちよさ、あるいはユラユラと揺れることの開放感。それらへの憧れを抱くのは、やはり日々の生活が、人間的な縛りを与えているからなのだろう。「開放サレタイ、開放サレタイ」と作品は語り、脳内くらげは、優雅に開放を踊っている。

「食欲ノ秘密」。痩せるヒデヨシなど、想像したことはなかった。何故ならヤツは、痩せたいなどと思わないし、食べないこともありえない。それでは痩せさせてみようと描いてみたら、気持ちが悪い。変な感じがする。なるほど太っているからの印象なのであって、ゲッソリ痩せた姿は、別な印象を与えるものなのだ。生まれる前の姿、死んだあ



との姿。前世や来世とよばれる空間を私は、信じているのだろうか。はたしてそのようなものは在るのだろうか。

数年前、私がスペインのセルタの街に行ったときのこと、泊まったホテルの部屋が変な感じがした。いろんなホテルを泊まってきた私にとって、どうも妙な気配だったのだ。その晩、眠っていて、血だらけの白人女の胸に十字にナイフが刺さるのを夢で見た。あまりの惨さに目覚めると、私の真上から、白い姿の外人が三人くらい、空中に浮かんでこっちを見ている。眠気で混乱しながらも、あまりの気持ちの悪さにシーツにもぐり、「あれれ、なんだ、今のは」ともう一度、顔を出すと、やはりコッチを見ている。気味悪さがグッと湧き、シーツをかぶりながら怖くなってきた。そしてもう一度決心して顔を出すと、それはほとんどぼんやりとして消えた。アレはいったいなんだったのか。すくなくとも部屋に居る変な気配というものを、初めて体験したのだった。

『キバキブ草』。写植の大きさは、別に指定しているわけではない。写植が大きければ、言葉は強く伝わってくる。



こうしてキバキブ草は

今回の話の後半、テンプラが眠ったあと、「一瞬で、眠りに落ちた」で始まる語りの部分。この写植、大きすぎる。せっかくの、語りが静かに始まっているのに、こんなにでかければヤカマシク聞こえる。どんな大きさにしてもイイってもんじゃないんだから、単行本では修正して小さくしてもらおうぞ。さあ、直っているかな。

「爆音草」。樹氷といえば、山形県と宮城県にまたがる蔵王のが有名だ。私は米沢時代を含めて、何度かスキーに行ったことがあるが、樹氷の野原はなかなかの雰囲気があった。まさにいろんな樹氷が何か他の生き物のような雰囲気で存在している。そうした樹氷のうち、一体だけを気に入って連れて歩くのが常人なら、ヒデヨシはあちこちやたら気に入って、たくさんつれて歩くだろう。それは「ひとつで満足すべきものを、どうしてもっと欲しがるのだ」という言葉が鏡に映ることでもある。この後編を描いているときに、親戚の叔母ちゃんが亡くなった。「夜汽車になりたい」の列車に乗って上京した路線を、いつかこんな風に新幹線に乗って、田舎へ帰る日が来るのは、時の定めなのかもしれないが、それでもやはり、胸にはたくさんの思い出が堆積して、窓から見える山並みは、力の無い灰色の悲しい形だった。

描くことは、いろいろな夜を過ごすことだ。いい朝もあり、切ない夜もあり、そしてあの真っ白な骨だけになる時刻まで、人は喜びと切なさを呼吸する。私はそれを記録して描くのだ。



（初出）コミックフラッパー 2006年8月号～2007年3月号

MFコミックス
フラッパーシリーズ

MFコミックス
アタゴオルは猫の森……………11

2007年3月31日 初版第1刷発行

著者……………ますむら・ひろし

発行人 松岡博治

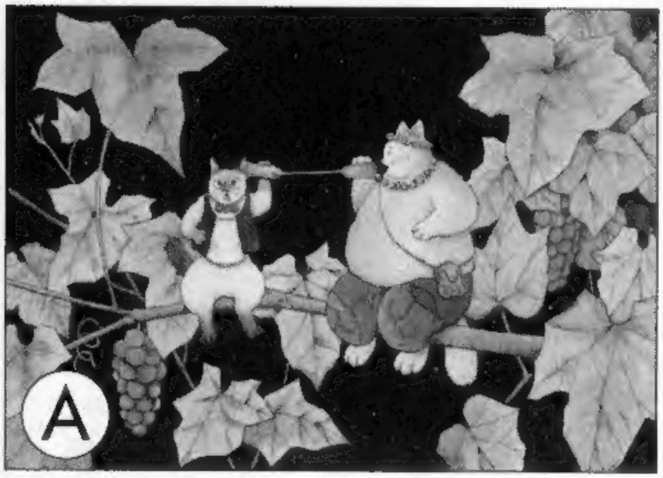
発行所 株式会社メディアファクトリー
〒104-0061 東京都中央区銀座8-4-17
TEL 0570-002-001 03-5469-4760(編集)

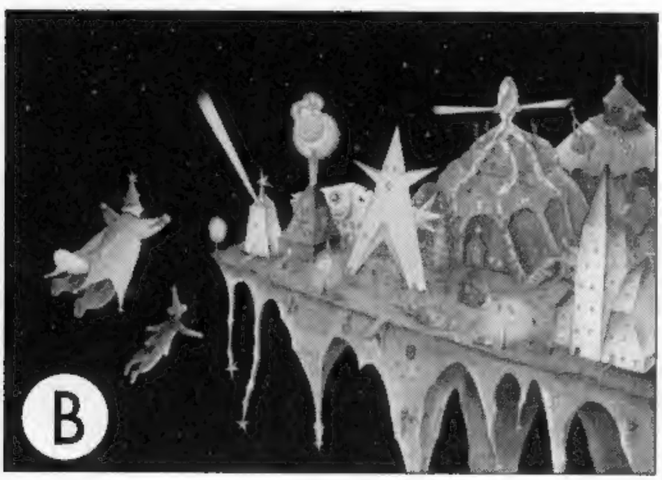
印刷・製本 大日本印刷株式会社

ISBN978-4-8401-1686-2 C9979

残りわずか!!

アタゴオル・リトグラフ
追加販売のお知らせ





色彩豊かなアタゴオルの世界、
ますむら・ひろしのカラーイラストを
先着順にて特別販売いたします。

枚数
A、B各30枚(限定200枚)

サイズ・体裁
594mm×420mm
(ガラス付レフーム入り)

価格
各3万円(税・発送料込み)

お振り込み締切
平成19年6月1日

発送
平成19年3月以降予定

**イラストはコミックフラッパー
ホームページでもごらん頂けます。
http://www.comic-flapper.com/**

**直筆サイン及び
通しナンバー入り!**

お申し込み方法
お近くの金融機関にて下記口座まで代金(1点に付き3万円)をお振り込みの上、
次の必要事項を振込控え(コピー可)と共に弊社までお送り下さい。
●御名前　●御住所　●電話番号　●AまたはB、ご希望のイラストをご明記下さい
※リトグラフの発送先はお振り込みされた御本人、御住所に限定させていただきます。
●お振り込み口座
三菱東京UFJ銀行　東京営業部　当座預金57507　カ)メディアファクトリー
※なおご送金時の振込手数料等はご負担いただくようお願いします。
※限定生産品のためお申し込み先着順とさせていただきます。
規定数を越えた場合は、当社負担で代金はお返しいたしますのであらかじめご了承下さい。

**お申し込み・お問い合わせ先 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-3-5　モリモビル
(株)メディアファクトリー　コミックフラッパー編集部　リトグラフ係 ☎03(5469)4760**



"漲る生命力"が奇跡を起こす!
「おれたちはな・・・
トコトン生きるために
生まれてきたのよーっ」
アタゴオルは猫の森
© 2006ますむらひろし・メディアファクトリー/アタゴオルフィルムパートナーズ
音楽監督に石井竜也を迎え、映像と音楽が華麗に融合!
豪華キャスト勢揃いの声優陣にも注目!
「アタゴオルは猫の森 DVD」
好評発売中♪
【初回封入特典】
オリジナルステッカー
AVBA-26231~2 ¥7,140 (tax in)
●特典内容永続特典
特典DVD（原作者ますむらひろし、西久保瑞穂監督、石井竜也音楽監督インタビュー、劇中歌クリップ集収録）
絵コンテ集リサイズブックレット、原作イラスト画集ポストカード5枚セット、特製ボックス仕様
原作:ますむらひろし（メディアファクトリー「コミックフラッパー」連載）／音楽監督:石井竜也／監督:西久保瑞穂
●声の出演／山寺宏一、平山あや、内田朝陽、谷啓、小桜エツ子、佐野史郎、田辺誠一、夏木マリ
© ますむらひろし・メディアファクトリー